

県中地域定住・二地域居住推進連絡協議会

事務局／福島県県中地方振興局 企画商工部

〒963-8540 福島県郡山市麓山1-1-1

TEL 024-935-1323



ふくしま移住計画 ウェブサイト
<http://fukushima-ijyu.com/>



ほ
ど
よ
い
イ
ナ
カ
が、
住
み
や
す
い。
。

福島と真ん中移住ガイド

ふくしま 移住計画

vol.
3



photo: 日影山(小野町)

移住までのステップ



step1: 移住の目的を考えよう

何を求めて移住するのかによって選ぶ地域は大きく変わります。農業をしてみたい、環境の良い場所に住みたい、子どもの教育を考えて…など。どんな地域でどんな生活を送りたいのか、よく考えてみるのが大切です。

step2: 家族・パートナーに相談しよう

移住の目的やメリット・デメリットなどを家族やパートナーとよく相談しましょう。また、相談することによって移住後の生活スタイルを具体的にイメージすることができます。



step3: 情報を集めて目的に合う地域を選ぼう

移住の目的が決まったら、交通の便や気候、地域性、仕事や子どもの教育など、様々な条件を考慮して、いくつかの地域を重点的に調べましょう。Webサイトはもちろん、移住セミナーなどに参加してみるのもおすすめです。

step4: 現地まで実際に行ってみよう

気になる地域は実際に目で見ると一番。体験ツアーや移住体験住宅を利用できることもあります。現地の雰囲気や生活環境を体験し、自分の想像とかけ離れていないか、確認しましょう。



step5: 移住先で仕事を探そう

生活していくうえで、まずは仕事が必要です。移住相談窓口やハローワークに問い合わせるのもよいでしょう。また、農業を始めたいなら、各地域の就農相談窓口などに相談しましょう。

step6: 住む場所を探そう

住みたい地域で目的に合った住居を探しましょう。中古住宅は補修が必要な場合もあるので、必ず現地確認を。



step7: さあ、いよいよ移住!

ご近所にあいさつしたり、地域の行事に参加したりして、地域との交流を深めていきましょう。

移住に興味があるけど、どこに相談したらいいかわからない…

私におまかせください!

私は、県中地域の小野町の在住で、長年、移住希望者と地域の人々の橋渡し役を担う「福島ふるさと暮らし案内人」として活動してきました。移住には不安がつきもの。そんなときに親身に相談に乗ってくれるところがあると嬉しいし、心強いですよね。移住後の友達づくり・仲間づくりのサポートにも力を入れていますので、ぜひお気軽にご相談ください。

福島県県中地方振興局：TEL 024-935-1323

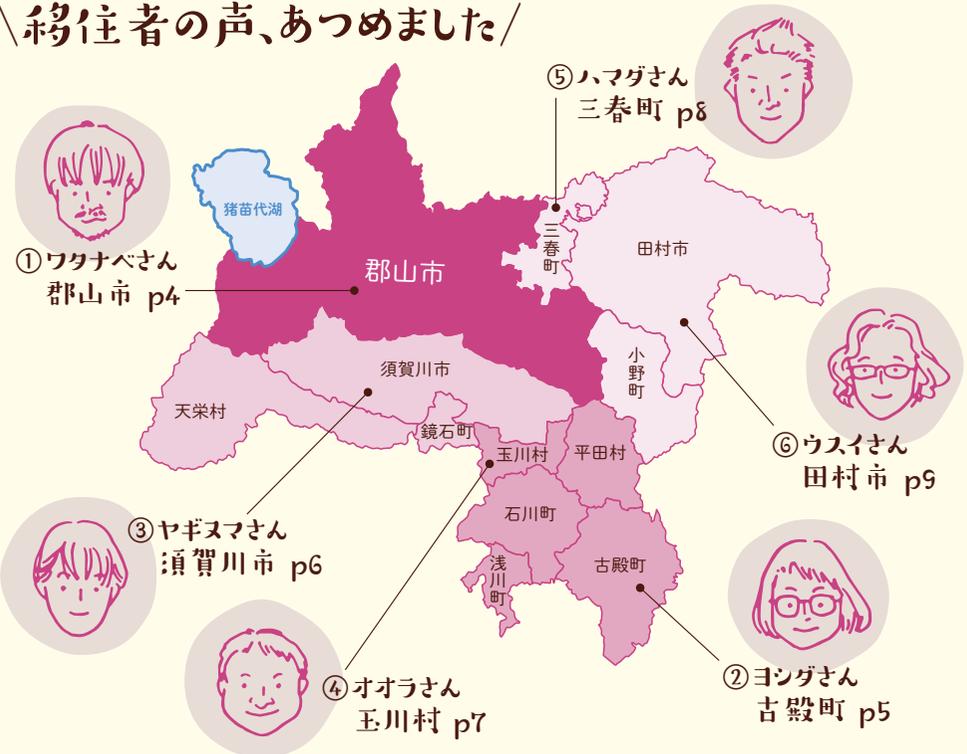


福島県移住
コーディネーター
(県中地域担当)
よもぎた まもる
蓬田 守です。

蓬田さんのFacebook



移住者の声、あつめました!



移住者インタビューGO!▶

vol.3

ふくしま人、かく語りき。

移住者インタビュー

地域の人とインバウンドをつなぐ
架け橋になりたい。

渡部景秋さん(郡山市)

第13
ふくしま人



福島県西会津町出身の渡部さん。建築業界、アパレル業界を経験し、2019年に「温泉ゲストハウス・湯kori」を郡山市でオープンされました。自分の好きな接客業で観光客と地域を結び取り組みにチャレンジされています。

Q.ゲストハウスを始めようと思ったきっかけは?

建築業界、アパレル業界で働いていた時は転勤族で、東日本大震災の際には、宮城県石巻市にいました。震災後、様々なボランティアに参加し、人と人が助け合っている姿を見て、福島県出身者なのにもかかわらず、故郷に何もできない、戻りたくても仕事が無いので戻れないもどかしさを強く感じました。アパレル業界は好きでしたが、インターネットで服が売られている状況を見て、実店舗の接客販売に限界を感じました。接客は好きだったので、人が人を必要とする業種、今までの接客力を生かせる業種が何かを考えるようになりました。旅行が好きだったので、アパレルの仕事を辞めてから1年間、全国を旅している時に、自分のスキルを生かせる職種が宿泊業ではないかと感じ始めました。そんな中で、お客様と丁度良い距離感の「ゲストハウス」に出会い、やってみようと思いました。



Q.「温泉ゲストハウス・湯kori」はどんな場所ですか?

もともと旅館だった場所をリノベーションしたゲストハウスです。求めた立地条件は、今後のインバウンド需要を見越してアクセスの良い駅前周辺であること、他のゲスト

ハウスと差別化できること、適度な客室数があることでした。その点で湯koriは全ての条件を満たしていて、特に磐梯熱海駅前の立地で温泉があることは好条件でした。

Q.郡山でのプレイヤーのつながりがありますか?

郡山で活動する人たちのつながりがあります。郡山では起業されている方が多いのでそういった方が集まる交流会にも参加しています。湯koriはオープンしてから2020年の4月で一周年を迎えますが、地域のプレイヤーの方々や先輩起業家とのつながりの中で刺激ももらっています。実は今もNPO法人コースターの坂上さんからの紹介で、インターンの学生を受け入れていて、学生さんはゲストハウスの仕事をしながら、磐梯熱海の魅力発信のミッションに取り組んでいます。

Q.「湯kori」をどういう場所にしていきたいですか?

1階にあるカフェ&パースペースでは、お昼時にはランチを提供し、夜には中通りにある24蔵の日本酒も楽しむことが出来るバーになります。一般のお客様もご利用いただけますので、宿泊のお客様と地元の方が自然とつながることがあるんです。ここで出会った人が、二次会で近くの居酒屋さんに行ったりとか。サービスの提供だけでなく、人と地域がつながるいろんなきっかけを作っていきたいです。

Q.今後の取組について教えてください。

インバウンドのお客様も増えていて、現状はスマホのアプリなどで対応していますが、外国語に対応できるスタッフを募集したいと思っています。2020年4月には、会津若松市にも宿泊施設をオープンしました。そこでは、コリビング機能を兼ねている部屋もあります。入居者同士で新たなプロジェクトが生まれる場所にしていきたいですし、チャレンジする人のお手伝いをできればと思っています。

■温泉ゲストハウス湯kori HP <https://fukuraya.jp/yukori/>



第14
ふくしま人



福島で出会った「人」と「田舎」に会いたい！
結婚しなくても移住してはばず。

吉田千尋さん(古殿町)

2013年に古殿町へトーンされた吉田千尋さん。千葉県出身で美術系の専門学校を卒業後、テレビ局の美術スタッフ、画家として個展の開催、ライブハウスの装飾やイベント主催を経験。現在は町内にある「吉田写真館・吉田製作所」にて、ご主人と写真館の運営、自社イベントである「カラフルタイム」を企画されています。

Q.移住した経緯を教えてください。

はじめて福島に関わりをもったきっかけは、東京で個展を開いたときに来て下さったお客さんのお誘いでした。当時、個人でSNSを利用して福島県の鮫川村で農業体験をする会を主催している方がいて、全国各地から人が集まっていた。そのお客さんがそこに参加していたんです。2〜3カ月に一回のペースで栽培から収穫を体験するもので、地元の方も交えてみんなでとれたものをBBQするのが楽しかったですね。その中のひとりに、吉田写真館の三代目カメラマンである今の夫がいました。2012年に結婚・出産と同時に移住したのですが、きっかけになった農業体験の主催者さん(彼女も県外からの移住者)は白河市に嫁いでいます。(笑)
震災前から農業体験で福島には何度も来ていたので、震災後に移住しましたが、不安というよりも福島で出会った友達に会いたいという気持ちが強かったですね。結婚しなくても移住したいと思っていました。

Q.移住へのあこがれはあったのですか?

実家が千葉県で、両親の出身が東京と神戸で都会だった



ので、大好きだったジブリ作品の影響もあって子供の頃からいわゆる「田舎」へのあこがれがありましたね。画家だった祖父の影響で、小さいころから美術に興味がありました。中学生頃から職業にすることを意識し始めて、高校は東京の高校のデザイン科に進学して、専門学校では舞台・テレビ業界を学びました。卒業後は、テレビ局の美術スタッフとして就職し、絵を描くことや音楽も好きだったので個展の開催やライブハウスでライブペインティングなどもしていました。スタジオのセットやイベント出店の際の装飾品は自分で作る事が多いです。

Q.地方の子育て・暮らしの環境はいかがですか?

こども園が新しく広く、先生も優しく大変お世話になってます。ただ、町内に小児科・産婦人科がなく、車で一時間弱かかるところに行っています。生活面で言うと、本屋や喫茶店が無かったり文化的なことが東京と比べると削られていると感じます。吉田製作所では、普段来て下さっているお客さんや地元の方への感謝の気持ちとして「カラフルタイム」を開催していますが、文化面でプラスになればいいという狙いも実はあります。町に喫茶店はないけど、町がやるのではなく、やりたい人を応援する町になって欲しいです。

Q.最後に今後の目標などを教えてください。

昔ながらの写真館として、地域の人たちに親しみやすさを残しつつ、新しいことも取り組んでいきたいです。やりたいことはたくさんあるのですが、具体的に今話が進んでいるのはイラストレーターさんとのコラボ撮影会です。吉田製作所ならではの写真がとれるように、強みを作っていきたいです。もうひとつの目的としては、異業種間のコラボを通じて、それぞれの仕事をやっている人たちが力を合わせることで大きなことができること、得意な事をもつ人同士が力を合わせることで未知の可能性が生まれることを伝えていきたいですし、好きなことを仕事にしたいと思えるように、子供たちの将来に選択肢の種をまいていきたいです。



第15 ふくしま人

地域の人とのつながりで 子育てママの応援拠点スタート！

柳沼涼子さん(須賀川市)

東京でフリーカメラマンとしてご活躍された後、結婚・出産と同時に須賀川市へUターンされました。2019年に新生児を撮影する「ニューボーンフォト」専門のスタジオである「Kinome Studio」を創業されました。

Q.移住された経緯を教えてください。

高校卒業までは石川町に住んでいて、進学と同時に東京に引っ越しました。卒業後は、東京のカメラスタジオにアシスタントとして入社し、下積みをしなが5年後にフリーカメラマンとして独立しました。結婚と妊娠を機に、福島へUターンしてきました。



Q.お仕事にはいつ復帰されたのですか？

東京で10年以上カメラマンとして働いていた時には、特殊な職種だったこともあり、福島に戻ったら仕事が無いだろうと思っていました。たまたまご縁があり地元でスタジオをお借りして撮影会や子育て講座などのイベントが開催できたのですが、いつかは自分のスタジオを持ちたいと思うようになりました。地元の方々、商工会、市役所などに相談する中で、周りの方がとても力になってくれました。商工会の創業塾で事業計画のサポートをしていただいたり、資金面では、開業資金などで市の補助金を使わせていただきました。協力してくれる方が増えていって、スタジオを持つことが自分だけの夢ではなくなりました。



Q.地方で仕事をしてみて、東京との違いは感じていますか？

フリーカメラマンの時は、プロジェクトごとにチームを組むので、仕事が終わればチームとしてのつながりはなくなります。人は多い東京ですが、現場ごとに関わる人が異なるので、孤独感がありました。地方の良さ、須賀川市の良さは、みんながどんなことをやっているのかがちょうどよくみんなに伝わる距離感だと思います。情報があすぎて埋もれてしまうと事業としても成り立たなくなってしまうので、「Kinome Studio」をオープンさせたことで知り合いの方が告知してくれて、紹介していただいたり、つながってくることが多いです。地域の方のつながりの中で、スタジオだけではなく、地元情報誌の撮影などお仕事に繋がることがあります。

Q.地方の子育て事情について

アパートですと回覧板が回ってこないのでも地域情報がなかなか入ってきません。当時はネットにあまり情報が載ってなくて、孤独感を感じていました。その時、知り合ったママ友と「マミーズガーデン」というサークルを立ち上げました。ママ同士で情報をみんなで共有したい、ママが参加しやすいイベントが少ないから、ママ同士でリフレッシュしたいという想いから立ち上げ、定期的にイベントを開催しています。

Q.「Kinome Studio」をどんな場所にしていきたいですか？

スタジオとしての機能だけでなく、ママが自宅と病院以外で子育てママのリフレッシュになるスペースでありたいと思っています。「マミーズガーデン」は拠点がないので、誰かがふらっと来れる場所になりたいですし、イベントに参加する人、できる人はいいんですが、なかなか敷居を高く感じて孤独感を感じるママもいると思います。なので、気軽に「今日誰かと話したい」と思ったときに立ち寄れる場所にしていきたいです。

■Kinome Studio HP <https://kinome-studio.com/>
■マミーズガーデンブログ <https://ameblo.jp/mammys-garden/>

地域おこし協力隊の、 さらにその先の支援を実現する 「たまかわ未来ファクトリー」

大羅 将さん(玉川村)



千葉県出身の大羅さんは、2019年10月まで玉川村地域おこし協力隊として活動し、現在はまちづくり会社「たまかわ未来ファクトリー」にて、創業支援、観光アクティビティ開発、空き家対策など協力隊での経験を活かしながら事業に取り組んでいらっしゃいます。



Q.「たまかわ未来ファクトリー」について教えてください。

弊社は札幌が本社の広告代理店で、紙媒体からデザイン等を主に手がけ、グローバルコミュニケーション部発足をきっかけに玉川村と岩手県山田町に拠点をもちながら、地方創生事業に取り組んでいます。玉川村とはふるさと納税の業務を受託しながら観光・物産関係を展開しています。

Q.入社までの経緯を教えてください。

地域おこし協力隊在任中に、玉川村役場の担当の方からまちづくり会社が設立することを聞きました。実は、それまでは村内に定住することは考えていなくて、県外に転出することも選択肢として考えていました。定住を決めた理由としては、玉川村には地域おこし協力隊が5名いるのですが、後輩隊員が3年後に定住できるか悩まなかったために、自分がモデルケースとなって示すために残ることを決めました。

Q.「たまかわ未来ファクトリー」として今後の活動予定は？

たくさんあるのですが、観光の分野でいくと、廃校になった小学校を改修し、20名が宿泊できる施設にする予定で地域の方々とのワークショップを重ね設計書を作成しているところです。他にも、2次交通開発検証や観光農園の可能性調査、アクティビティの開発、東野清流ウォークの案内人を協力隊として募集をする予定です。

第16 ふくしま人



Q.創業支援の取り組みについて教えてください。

村からの委託事業で「玉川村キッチンカープロジェクト」を受託しています。コーヒー、ハンバーガー、スムージーの創業希望者がいます。支援内容としては、キッチンカーのレンタル費用の支援や広報活動支援、運営に関するアドバイスを受けることができます。創業3年後には、村内で創業してもらう条件となっています。ちなみに、事務所も6年程前に喫茶店だった場所を改修したもので、今後は飲食業で起業したい方向けのチャレンジショップにしていこう予定です。

Q.協力隊と現在の立場で、仕事の進め方の違いは？

「たまかわ未来ファクトリー」では、協力隊の先を進む取り組みができると思っています。協力隊時代は「役場と一緒に事業を作る」というスタンスでしたが、こちらから事業を提案できる形になりました。地域おこし協力隊の3年間の活動の中で、玉川村の方々とのつながり、キーパーソンとのつながりがあったからこそ、今の活動にコミットできていると思います。

Q.協力隊の定住のためには何が必要だと思いますか？

具体的な方法としては、地域おこし協力隊として3年間の任期の中でミッションに取り組み、経験を積みながら自分自身のスキルアップを図って、任期後に行政から外注されるまでの実力をつけることができれば、協力隊はその地域に定住できると思っています。「たまかわ未来ファクトリー」では、事業拡大に向けて正社員を募集する予定です。協力隊の任期後の受け皿だけではなく、地方に移住して地域貢献したい首都圏の方々とも一緒にお仕事ができればと思っています。

■玉川村キッチンカープロジェクトHP
<https://challenge.tamakawa-village.com/>



誰でもできる健康づくりと 憩いの場の提供から 日本一健康な町を創る。

第17
ふくしま人

浜田 雅博さん(三春町)



三春町出身の浜田さんは仙台市の大学を卒業後、父と共に地域のかかりつけ薬局として地域の病院と連携しながら在宅医療に積極的に取り組んでいます。2017年4月に町民の健康的な食生活や健康づくりを支援する「カフェブリキヌ」を三春町にオープンし、薬剤師の専門知識を生かしながら健康に配慮した食事を提供しています。

Q.帰郷された理由・きっかけを教えてください。

大学時代からいずれ地元に戻ろうと考えていましたが、東京の大手製薬会社やいわゆる麻薬Gメンになることも選択肢としてあり、様々な経験をしてから帰ることを考えていました。就職活動の際に、父の薬局を手伝わなければいけない状況だったことや、大学の友人を父に会わせただけに父が「うちに来いよ。」という一言で友人が三春町の薬局に就職することを決意したことで、自分の考えも固まりました。

Q.現在の勤務地はどちらですか？

初めは、浪江町と三春町の薬局で働いていました。現在も三春町に薬局はありますが、人手が足りないときのお手伝い程度で、「ブリキヌ」も基本はスタッフに任せています。県内外から講師の依頼をいただくので、老人ホームに赴いて薬の使い方を教えたり、健康教室を開いたり出張することが多いです。

Q.薬剤師の資格を持ちながらカフェを経営しようと思ったきっかけは何ですか？

薬局に来られる地域の方々と、次の相談日を決める際に手帳を見たら通院の予定ばかりで寂しさを感じました。そんな方々のために通院や法事以外で外出できる場所を作りたい、そして非日常が味わえる空間を提供したいと思ったのがきっかけです。「健康づくり」は予防が一番大切なのですが、薬局で大切さを訴えてもなかなか伝わらせません。食事から健康を伝えたい、広げたいという想いから「健康づくり」を意識した食事を提供しています。

Q.レトロなものがたくさん置いてありますが、 お店のコンセプトは何ですか？

若い方も高齢の方も入りやすいかっこよさとつかしさを組み合わせた雰囲気づくりを心がけています。高齢の方が集まって誕生会を開いたり、老人会に行く前の待ち合わせ場所として利用していただきたいです。たまに店の雰囲気がオシャレすぎると言われますが、「あのお店に行くなら少しオシャレをしようかな。」という気持ちが大事で、認知症予防にも効果があるんです。



Q.料理にはどのような工夫をされていますか？

健康になれるヒントを入れるようにしています。福島県は高血圧等の生活習慣病に悩んでいる方が全国的に見て多いです。ですので、パスタを作るときに使う塩分を半分以下にカットしたり、アマニ油を使用したり家庭でもできる健康づくりを意識しています。提供する食事の食材は地元の農家さんから仕入れるようにしています。

Q.今後の目標を教えてください。

三春町を日本一健康な町にすることです。福島県はまだまだ風評被害に悩んでいます。私は日本一健康な町が風評被害に合うわけがないと思って活動しています。それと、「ブリキヌ」がおじいちゃんおばあちゃんにぎわい、若い人と地域の方が交流できるような場所になりたいと思っています。



これから移住してくるのは、 新しいことを始めるおもしろい人たち。

白井真由美さん(田村市)

第18
ふくしま人



東京出身の白井真由美さん。東京の農場で技術職員として農場管理や、京都でドローンの研究調査などを経験し、2019年から田村市のテラス石森に事務所を構えたプランツラボラトリー福島イノベーションセンターの所長として移住し、植物工場の実証研究に取り組んでいます。

Q.これまでの経歴について教えてください。

大学では農業や環境問題、地域おこしなどを学んでいました。卒業後は東京大学付属の農場で技術職員として農場の管理や教授の研究の補助などをしていました。東大の教授はドローンを使った生育観察とか新しい研究をされてる方がたくさんいて、そういう技術を使って日本の農業を変えられるかもしれないと思って、5年半程働いた後に京都のドローンを扱う会社に転職して、研究調査をしているグループで1年半程働いていました。

Q.田村市にきたきっかけは何ですか？

そろそろ次にいこう!と思って会社を辞めるとい時に、今の会社の社長に誘っていただきました。勤務先は東京が福島かで選択肢がありました。福島で働くことを選びました。いつか農業分野に戻りたいと思っていたので、福島の植物工場で新しい技術を使って野菜を作る、そういう農業のあり方もいいなと。仕事内容としては、ビニールハウス型の植物工場を建ててイチゴの水耕栽培の実証研究をしています。真夏でも真冬でも年間通じて栽培をすることができます。

Q.暮らしてみてもいいなと思ったことはありますか？

いいところはいっぱいあります。小高い高原で自然が豊かだし、山が見えて緑が多い。空港も近いから出張に行くのも不便しないし、車に乗るとどこにでも行けて、生活必需品の調達にも困らないです。福島の人はみんなやさしくて、接していていやな気分になったことがありませんよ。

Q.暮らしてみても困ったことはありますか？

あまり困ったことはないですが、しいていうなら、物足りなさみたいなものはあります。人口密度が低いのは良いことでもあります。常日頃新しい刺激を受けられる人との出会いは少ないということでもあります。行き交う人や広告のような外からの刺激が多い東京等とは違って、良い意味でも悪い意味でも外界からのストレスが少ないです。(笑)

Q.テラス石森はどんな場所ですか？

いろんな人が集まっている場所で、面白い考え方の人がいるので出会えてよかったと思います。これから都会じゃないところに移住してくるって、新しいことを始めようとしている人も多いので、こういう拠点的なところがあるといいと思います。

Q.これからどんなことをしたいと考えていますか？

色んな人に会いたいなと思っています。あとはふくしま全部知りたみたい。(笑)仕事に関しては、これまで農家がやってきてくれたことが大きな功績なのは間違いありませんが、農業人口が減っていく中、新しい技術でなんとかしていきたい、それが復興のお手伝いになればいいなと思っています。



活用しよう! 制度と施設



コワーキングスペース

コワーキングスペースとは、創業を目指す人や起業したばかりの人、そしてベテランの経営者などが気軽に集い、勉強会や情報交換会、イベントなどを開催する場所です。

名称	問い合わせ先	TEL	料金等
郡山市 co-ba koriyama	一般社団法人グロウイングクラウド	024-922-1377	一般会員8,000円(月額) 1Day利用1,000円
郡山市 コワーキングスペースコオリヤマ	NPO法人アイカラー福島	024-953-8057	月額会員12,000円
郡山市 福島コトひらく	NPO法人コースター	024-983-1157	月額会員10,000円 1Day利用1,000円
田村市 テラス石森	一般社団法人Switch	0247-61-7575	15,000円(月額) 1,000円(日額)

農業

国 農業次世代人材育成資金

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農前の研修を後押しする資金(準備型/2年以内)および就農直後の経営確立を支援する資金(経営開始型/5年以内)を交付します。



空き家バンク



移住地で、自分の城となる住まい。せっかく移住するのなら、こだわりのお気に入り物件を見つけてのびのびと生活したいですよね。事前の情報集めが何より重要な移住候補地での物件探し。ポイントを絞って効率的に探しましょう!



最大
250万円
補助!!



福島県 リフォーム補助

空き家のリフォーム・ハウスクリーニングに最大250万円を補助します!
対象/県内の空き家を改修する県外からの移住者

須賀川市 田村市 三春町 石川町 引っ越し補助

新婚世帯の引っ越しをサポート! 最大30万円を補助します!
対象/令和2年3月1日~令和3年2月28日までに婚姻届を提出した34歳以下の夫婦かつ直近の所得証明書に基づく夫婦の合計所得金額が340万円未満の世帯
※自治体によって要件が異なります。



新婚世帯の引っ越しに



最大
30万円
補助

参考サイト
「みはる暮らし」

コミュニティ

友達がなくても安心!

郡山市 はやまーゼ教室

新しく郡山市へ転入された女性を対象に、「郡山を知ってもらうこと」「仲間づくり」を目的とした教室を開催しています。
郡山市立中央公民館 TEL 024-934-1212



天栄村 湯本塾実行委員会

湯本地区のよさを再認識するとともに都市部からの移住・定住の促進を目指し、湯本を元気にすることを目的としたプロジェクトです。
天栄村役場湯本支所 TEL 0248-84-2111



小野町 移住者交流会

町外からの移住者を対象に、地元食材を使った家庭料理を楽しむ交流会を開いています。
小野町ふるさと暮らし支援センター TEL 0247-61-5504



各市町村の補助制度一覧



(令和元年6月1日現在)

市町村名	問い合わせ先	電話番号	しごと支援			住まい支援				子育て支援			体験	
			コワーキングスペース	創業支援	空き店舗	奨学金補助	空き家バンク	引越し補助	住宅取得補助	空き家改修補助	出産祝い金	医療費助成	保育料支援	お試し住宅
郡山市	政策開発課	024-924-2021	○	○							○	○		○
須賀川市	企画政策課	0248-88-9111		○			○	○		○	○	○		○
田村市	経営戦略室	0247-81-2117	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
鏡石町	総務課	0248-62-2117		○	○			○	○	○	○	○		
天栄村	企画政策課	0248-82-2333						○	○	○	○	○		○
石川町	企画商工課	0247-26-9111					○	○	○	○	○	○		○
玉川村	総務課	0247-57-3101					○	○		○	○	○		
平田村	総務課	0247-55-3111					○		○	○	○	○		○
浅川町	総務課	0247-36-4121					○		○	○	○	○		
古殿町	産業振興課	0247-53-4620						○		○	○	○		○
三春町	企画政策課	0247-62-1122					○	○	○	○	○	○		○
小野町	企画政策課	0247-72-6939						○	○	○	○	○		○

※詳しい内容、条件等は各市町村へお問い合わせください。
 ※医療費助成は、県内全域で実施(18歳以下医療費無料)
 ※空き家改修補助は、県内全域で実施(福島県空き家・ふるさと復興支援事業)。
 ※住宅取得補助は、市町村の独自補助があり、県による上乗せ補助があります(来て ふくしま 住宅取得支援事業)。



現地案内について

プチ移住
してみたい!

お試し住宅



田村市 お試しチャレンジハウス
 料金/1日300円
 滞在期間/2日~3ヶ月。更新も可能。
 問い合わせ先/
 田村市経営戦略室 TEL 0247-81-2117



福島県
来てふくしま体験住宅提供事業

若者等を対象に福島体験のための滞在住宅として
 県営住宅の空き住戸を一定期間提供します。
 料金/月額10,000円(駐車場・共益費等は別途負担)
 滞在期間/3ヶ月(最長1年まで延長可)
 募集期間/令和2年6月19日~令和2年12月25日
 ※先着順で、予算枠に達した時点で募集は終了です。
 要件/SNSで移住や福島の魅力について情報発信を
 行うこと。団地の自治会活動へ参加すること。等
 問い合わせ先/
 福島県県中建設事務所 建築住宅課
 TEL 024-935-1462



まずは、ふくしまに行ってみよう!

交通費補助



福島県
 対象者/県外在住の方で福島県への移住を希望する方
 補助額/定額(現住所により異なります)※東京都の場合は8,000円



須賀川市
 対象者/市内事業者での就職活動を行った市外居住の方
 補助額/交通費:上限2万円 宿泊費:上限1泊6千円(5泊分まで)



物件とか仕事とか地域のこととか、
 いろいろ知りたいけど
 どこに行けばいいかわからない

オーガナイズ型 現地案内

料金/無料(現地までの交通費、食事代、宿泊費は自己負担)
 日程/ご希望の日程・内容を聞き取って設定いたします
 お問い合わせ/福島県 県中地方振興局 024-935-1323

ふくしま ど真ん中 チャレンジライフ

地方就農して
 地域農業の
 担い手になる!

ゲストハウスを
 経営して
 スローライフ!

地域の一員として
 地域おこしをしたい!

ふくしまに移住を検討しているあなたに
 「ふくしまでの新しい暮らし方・働き方」を提案します!



ふくしまでの挑戦に向けて、まずは体験してみませんか?
 詳しくは、福島県県中地方振興局へお問い合わせください。

ご相談はこちら

都内での
 ご相談は

有楽町にある「福が満開、福しま暮らし情報センター」にて相談員が常駐しておりますので、移住に向けた地域情報の収集や、お仕事・お住まいに関する悩みを相談したい方、まずはお気軽にご訪問ください!

福が満開、福しま暮らし情報センター
 (千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階
 NPO法人ふるさと帰郷支援センター内)
 TEL 03-6551-2989
 E-mail: fukushima@furusatokaiki.net

現地の
 ご案内は

県中地方振興局でも、様々なテーマでのセミナーの開催や、実際に現地案内をしております。お気軽にお問い合わせください!

福島県県中地方振興局
 企画商工部 地域づくり・商工労政課
 TEL 024-935-1323
 E-mail: kenchu.kikakushoukou@pref.fukushima.lg.jp
 http://fukushima-ijyu.com